

⑤進路指導の充実、全生徒の進路実現							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路の実現	基礎学力を向上させ、進路実現100%を達成する。また、適切な進路提供情報を提出し、生徒が主体的に進路を選択できるようにする。	・授業を大切に、家庭学習の習慣をつけさせる。生徒の就職・進学希望の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 ・必要な情報を適切に提供し、適切な進路相談を施して、生徒の主体的な進路決定の手助けとする。 ・会社訪問を行い、職場開拓や求人情報を生徒に提供する。 ・進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高橋に努め、個別指導を行う。	B	目標である進路決定率100%は本年度もほぼ達成できた。1回目の就職試験での内定率は86.8%（昨年より1.8ポイント上昇した）。 進学については大学に5名、専門学校に10名と受験者全員合格を果たした。このことは、早い段階からの進路意識の啓発が功を奏したものと思われる。また、例年、生徒・保護者に情報提供を心がけ、効果的に伝達できた判断できる。 残念ながら一方で、コミュニケーション不足または学力不足のために1回目の試験で内定できない生徒もいた。今後も、1年時からの進路意識の高橋に努めるとともに、コミュニケーション不足の解消、学力の向上が課題である。 会社訪問については就職支援員の協力を得て、精力的に行うことができた。	職業意識の育成を主眼に置き各校務分掌との連携を強化する。 社会人外部講師、インターンシップ、工場見学、応募前職場見学、長期インターンシップ等を各校務分掌と協力して実施し、各学年における進路によるLHRを充実させる。 外部就職ガイダンス等に2・3年生をそれぞれ参加させ、進路指導の徹底を図る。 進路希望調査を1年生にも実施し、2年生・3年生については複数回実施する。夏季休業中の補習についてはSPIを中心に、作文指導についても指導する。
⑥安全							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発。	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。ゴミの減量化と資源物（紙類）の回収を実施する。	・教室の校内美化点検を毎週末行い、結果を担任へ報告する。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物（紙類）を回収し、環境に配慮する。 ・環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。	A	毎週実施した校内美化点検により週末の教室様の環境が改善された。ゴミは以前よりも減少した。	生徒の掃除への取り組みは以前よりかなり改善された。これを今後も継続していき職員との意識を継続させていく。ゴミの減量化、分別では一定の成果を得たので、今後は生徒会などと協力して、美化コンクールなどの取り組みも行いたい。
	○安全教育	施設の安全点検と実習等の安全作業	安全点検を実施し、必要な対策を行う。実習棟の整理・整頓と安全な実習運営	・毎月、各点検箇所の実行者が安全点検を実施し、報告する。 ・実習や課題研究では安全作業と適切な服装での作業を徹底する。	B	安全点検を毎月実施し、随時必要な対策を行った。実習では、授業者が必要な安全対策をとった。	校内の施設面では、校内を安全の視点で見ること、かなり改善され、次年度への課題も出ている。授業中や部活動中のけがなどが折出ているので、職員全体で、より安全を意識した活動を考える必要がある。
⑦資格取得への意欲の醸成と実績の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。	・「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 ・進路指導部とも連携し、特に3年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。	B	学力の向上の為に力を入れている「数学会」は、今年度も期間中休む生徒もほとんど無く、達成感も得られそれなりの成果が出たように思う。該当生徒のその後の数学の成績を見ると、効果が現れている。特に、数学の小テストでは他の生徒と変わらないくらいの点数数となっている。	今後も達成感を得られ、数学の力がついたことが実感できるように問題作成を考えていきたい。また、生徒がその他の教科にも興味を関心を持って学習に取り組めるようにしたい。現在、一部の生徒に対して「数学会」を行っているが、1年生の全生徒に放課後学習用PCを使い数学以外の教科も含め、短時間で継続的に進めるような取り組みを検討したい。
		資格取得の推進	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。	・資格試験ハンドブックを有効に活用し、各自が卒業までに取得を希望する資格を決めさせる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を指示するなどして、意識の向上を図る。	B	「資格試験ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源となっている。そのため、受験者は例年同様が多かった。一部の資格試験では、多くの合格者を出した。土木科では、今年度初めて左官技能士を受験し6名全員合格させることができた。ジュニアマスター認定総数は昨年より減少した。	資格取得に対する意識の高橋は、進路指導の面からも重要であるが、合格率を上げることは、生徒のさらなる取り組みの改善、経済的な負担を減少させることができ重要な課題である。 奨励する資格の変更、指導方法の工夫など、指導する側の体制の見直しも必要である。
⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年生の入部率を向上させる。 ・とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力味わわせ、充実した学校生活に役立たせる。 ・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしておくことを生徒へアナウンスしていく。	B	様々な取り組みにより、加入率は増加したが、入部後については各部の活動状況や顧問の指導観などが違うため、1年生の2学期以降の定着率を高く保つことは容易ではない。	・ここ数年で、一定の成果は見られており、継続して取り組んでいきたい。 ・次のステップに進むためには、職員研修等で全職員の部活動活性化に対する共通理解を深める必要がある。
教育活動	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」を通して地域に貢献する。	・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元イベントでのものづくり体験をしてみよう。	A	建築科では、唐津市の学校近隣の施設や保育園などに手作りベンチを贈った。また、生徒の出身中学校への寄贈に貢献している。電気科では、唐津特別支援学校からの依頼で補助スツリの製作をおこなった。機械科では、地域の公民館から依頼のコミニケーションの製作をおこなった。土木科では、左官技能を活かし、鬼塚中学校の屋外水槽補修工事をおこなった。さらには、鬼塚公民館で毎年行われている鬼塚まつりでは、全科とも製作体験教室を行った。このような取組は、地域に浸透し、工業高校の存在感を示してきた。	学校PRや生徒の意欲の醸成の面からも、今年度同様、ものづくりを活かした地域貢献活動には今後も積極的に取り組んでいきたい。 地域との連携・地域への貢献は、専門高校として、学校活性化の中心的な取組である。このような取組が地域や中学生の保護者に理解され、入学希望者の増加に繋げていきたい。
⑨ICT活用教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	タブレット・電子黒板を利用した授業の推進	電子黒板・学習用PCを積極的に活用するために、授業手法の見直しを行い、わかりやすい授業の実現を目指す。	・SKYMENUの使用法・SEI-Netのアンケート機能についての研修を行う。 ・学習用PCと授業支援ソフトを使った授業についての理解を深める。 ・不具合等の対策を可能な限り素早く行い、円滑な授業運営を支える。	B	・必要な研修を定期的に行った。先生方の参加も積極的であった。 ・電子黒板についてはほとんどの先生方が使用している。 ・学習用PCの利活用についても、教材インストールの不具合、通信環境の不具合、生徒の充電忘れ、持参忘れ、故障など多くのトラブルがある中、ほぼ毎授業時間使用する教員も数人おり、十分な利活用が行われている。 ・生徒も学習用PCの利用に慣れてきており、トラブルを逐一教諭に報告していたのが、自分で再起動してみる等適切な対応をするようになった。 ・科目によっては教材不足は改善されておらず未だ利活用の道が見えない教科・担当者もいる。 ・学習用PCの故障や破損が継続的に発生している。	・1・2年の教科担当者については学習用PCの利活用についてはスムーズに行えるようになってきている。ICTサポートの存在は大きく、来年度も継続して来ていただきたい。別して3年生の授業のみを担当の教諭については不安が残る。しかし、来年度は、完成年度で有り全校生徒が学習用PCも、教師全員が利用しなければならない環境になるため、積極的にサポートしていくことで十分な利活用が期待できる。 ・全校生徒が学習用PCを使用するようになり、3年生の学習用PCに関しては経年劣化による不具合の増加も予想される。不具合対応の増加に対応できる予備機の台数や人員確保、体制整備が必要であると感じている。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	B	一学期の健康診断の結果を受け、保護者面談を通して自己の健康管理の意識を向上させた。インフルエンザの時期には生徒保健委員と協力姿勢との健康状態の把握ができた。	健康診断後の受診率の向上については引き続き継続して指導をしていく。強く受診を進めた方がよい生徒も居るので、少人数を集めて指導をしていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

今年度の学校経営ビジョンとして、①全ての生徒が安心して学習でき、安全に生活できる学校づくり。②保護者や地域との協力・連携を深め、信頼される学校づくり。③生徒は真剣な態度で授業を受け、教師はよくわかる授業を行う学校づくり。④生徒に夢を持たせ、夢を育み、夢の実現に向けて歩ませ、全力でサポートする学校づくり。⑤必要な常識、規範意識(道徳心)、基礎的な知識・技術を身につけさせる学校づくり。を目標に取り組んだ。特に力を入れたことは、「いじめ問題の防止と早期発見」である。いじめ防止については、アンケートを年間5回実施し、その後には全生徒と面談を実施した。また、いじめの起こりにくい環境作りのために教室棟の巡視も実施した。まだ十分とはいえないが、「いじめは見逃さない」という学校の姿勢は生徒や保護者に伝わったと判断している。しかし、三学期末に覚知事案が発生し、新たに学校の体制づくりを考えるきっかけとなった。関係職員の迅速な対応で早期に解決したことは良かった。次年度も全職員でしっかり取り組みたい。学校独自の取組の「ヒューマントレーニング」やあらゆる場面での「規範意識や人権意識の高揚」について継続して取り組んでいきたい。また、「ものづくりによる地域貢献」についても、建築科の模型製作やベントリの希殖、電気科の特別支援学校との連携で製作した訓練用電気スイッチ、土木科の近隣中学校での池の修復、機械科のゴミステーションの製作等で学校の取組をしっかりとPRすることができた。授業態度についても、年々改善されてきた。教師側の授業力向上とともに、粘り強く取り組んでいきたい。次年度も、HPや学校便りを活用し、保護者や地域に出来るだけ紹介していきたい。進路については100%の達成であり、1次内定率も昨年度に比べ上昇した。しかし、自分を表現できない生徒も多く、就職試験を複数回受験した生徒もいた。進路意識の高揚とともに、基礎学力の定着とあわせ、自己表現力を身につけさせなければならない。ボランティア活動については、生徒会を中心として、地道な取り組みを行うことが出来た。部活動も徐々にではあるが活性化しており、学校の活性化につながっている。部員の定着率を高める努力を行い、さらなる活性化に繋げていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目